

## 彙報

# はじめて学ぶ人のための乳幼児の「絵画指導」の実際

松岡義和

市立名寄短期大学名誉教授

## 1. 「絵画指導」の歴史

美術教育の世界では、1945年の終戦は、それ以後の乳幼児の「絵画指導」を考える上では、革命的な出来事でした。アメリカから新しい幼児画の指導が導入され、チゼックやローエンフィルドの研究が文献によって紹介されたからです。

さらに一部心理学者によって、「描画診断」や「幼児画の見方」などの心理的分析が提唱されると、小学校はもとより幼稚園、保育園においても、日本中で大流行します。分析の対象になったのは、当然「自由画」です。「子どもは天才である」「子どもの絵は教えるはいけない」「技術指導などはとんでもない。子どもらしさや個性がなくなってしまう」「心理的抑圧から解放されるためには、できるだけ大きな画用紙（または模造紙）に、大胆にのびのびと描かせるのがいい」と言われました。

創造美育協会（通称・創美）が結成され、1950年代の「創美」の全国大会はお祭りさわぎでした。長い軍国主義の「国民学校令」による戦争画の教科書からの解放という意味では意義がありました。しかし、「好きなことを描いてごらん」「何を描いてもいいのよ」「自由に描いてごらん」の言葉かけや、励ましだけでは子どもたちの絵が描けるようにはなりませんでした。

「新しい絵の会」が結成され、芸術教育研究所が設立されて、1960年代からは「どんな子にも描ける」乳幼児の絵画指導を、教科論の立場から研究されて、良く見て描く「観察画」やくらしを描く「生活画」を描くことによって、何を描くのかがわかってきました。また、芸術教育研究所の研究と実践検証によって、乳幼児には表現以前に「表現のための基礎能力」が必要ながわかってきました。「基礎能力」を習得してこそ、描きたいことが表現できるようになるのです。

「自由画」は間違いではありません。のびのび大胆に自分を表現する子どもというのは、私たちの願いであり、理想です。そのためには、「絵画」も基礎能力をつけるために指導しなければなりません。基礎的な能力や技術を教えてこそ、描きたいイメージを描けるようになっていくのです。

## 2. 「乳幼児の絵画指導」と取り組んで58年

私が「乳幼児の絵画指導」の研究に取り組んで、もう58年になります。幼児はクレヨン画と信じて、絵の具の材料や用具もそろっていない園が今でも多いし、いまだに「紫色を使う子どもはどうしたらいいのでしょう」とか、「描きたがらない子、描けない子にはどんな言葉かけをしたらいいのでしょうか」と、研究会のたびに相談を受けます。

題材を与えていないし、題材も年間カリキュラムによって設定していないのです。

「母の日」には「お母さんの絵」というような、行事中心カリキュラムも残っています。まるが描けない子に「お母さん」など描けるわけがありません。

どのように「ぬたくり」や「じぐざぐ描き」から脱出するか。まるが描けない子にはどんな題材を与えたらいいのかを考えるのが、指導者の役目です。

---

責任著者

住所 〒096-8641 北海道名寄市西4条北8丁目1番地 名寄市立大学道北地域研究所内

E-mail : chicken@nayoro.ac.jp

〈ぬたくり〉



〈じぐざぐ描き〉



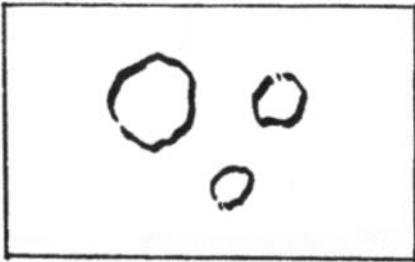
〈点が描ける〉



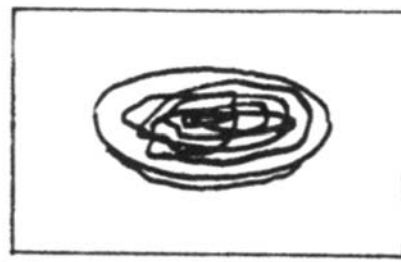
〈ぐるぐるまるが描ける〉



〈まるが描ける〉



〈「お皿の上のスパゲッティ」〉



〈「ラーメン」〉



〈「お母さん」〉

2～3才児の絵



\* 描画材－「クレヨン」「えんぴつ」「色鉛筆」は、線を描く描画材です。

### 3. なぜ子どもに絵を描かせるのか

精神的にも肉体的にも調和のとれた人間になりたい。これはギリシャ時代から求められてきた、人間の理想像です。たくましい健康な身体は、調和のとれた食事による栄養補給、そして適度な運動やスポーツによって体位も体格も形成され、成長します。

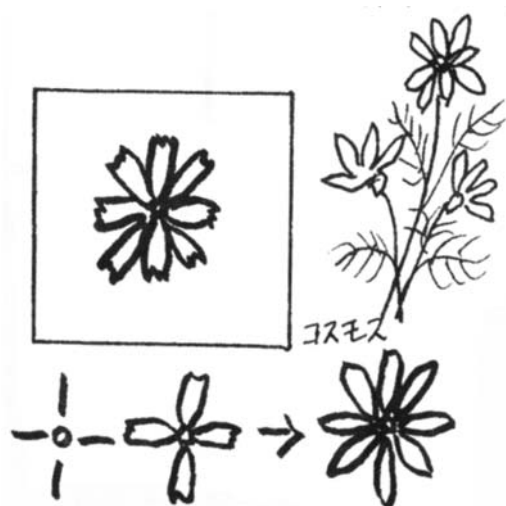
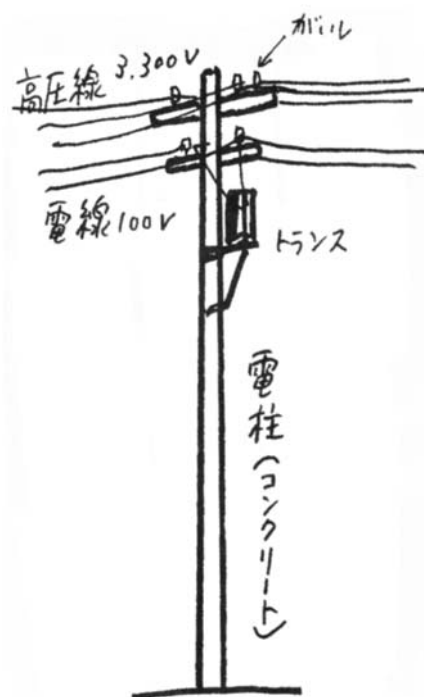
しかし、心は食事や運動だけでは形成されません。芸術、文化の力を借りなければ、心の発達はず、人間の子どもは教育を受けなければ人間になりきれません。「やさしい心」「いたわりの心」「小さいもの、弱いもの、こわれやすいものをいとおしむ心」そして「美しいものにあこがれ、美しいものを愛し、美しいものを自ら創り出そうとする心」それが芸術教育によって養われます。

芸術教育は美術だけではなく。音楽も舞踊も演劇も文学もあります。それぞれが美しさを求め、美しさを創造し、人間の感性と情緒を高める力をもっています。絵を描くという活動は、その中でもとりわけどんな力が育つのでしょうか。

絵を描くということは「見る」ことです。私たちの目には日常的に家並みも街路樹も見えています。しかし、それは目に「映っている」のであって、見えてはいません。試しに電信柱を描いてみるといいです。自分が毎日一歩外へ出ると目にしている電信柱を、いかに知らないか、見ていないかを描いてみるとわかります。

電気を送電するのは、正しくは「電柱」といいます。かつては「電話」や「電報」を送信する柱のことを「電信柱」とよんでいたのです。今では「送電線」も含めて「電信柱」とよんでいます。木で出来ていると思った電信柱が、コンクリートで出来ていることや、腕木が1本の電信柱もあるけれど、2本あることや、時には3本あることが見えてきます。

上の腕木は高圧線で、3,300ボルトの電流が流れて3本の送電線が白い碍子（がいし）で止められています。ところが下の腕木には2本の送電線（100ボルト）しかないことに気づきます。見ること、見つめることはわかることへと発展し、見抜くという高度な認識力を発達させるのです。



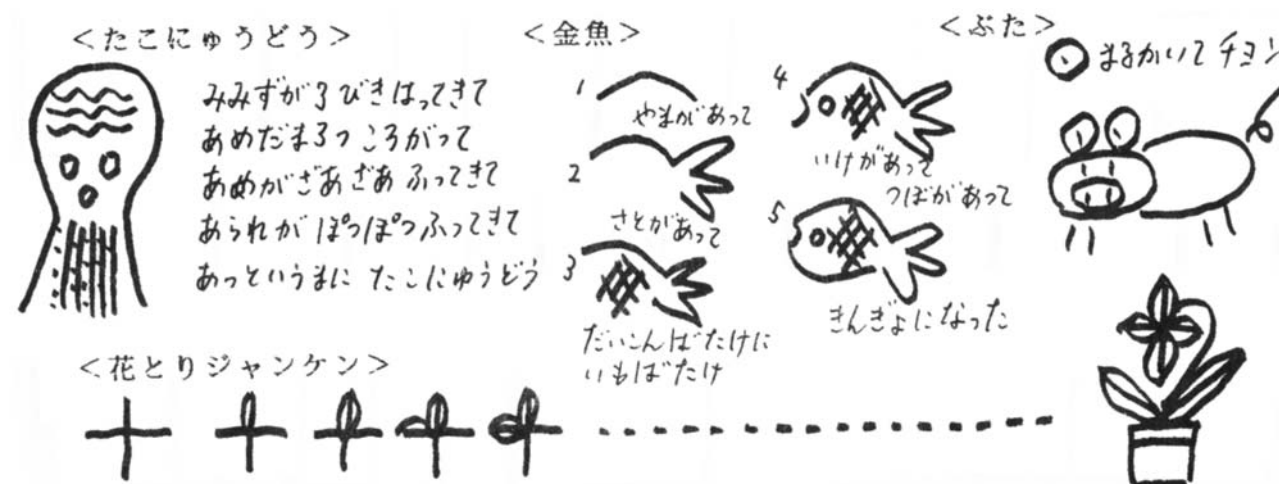
草花を描くことによって、自然の美しさ、けなげさに気づき、自然の法則にも認識は高まります。コスモスは放射線状に広がる8枚の花びらで構成されていますが、アジサイは4枚の花びらのかたまりです。

「きれい！」という感動の高まりが、「描きたい！」という心を揺さぶります。その時、幼児でも大人でも「自由に描きなさい」といわれても、誰もが描けるわけではありません。見え方、見せ方、表し方を指導してこそ表現になるのです。

絵を描くことに興味をしめさない子どもには、「絵描きあそび」という昔から伝わる「伝承あそび」があります。これは決して懐古趣味ではなく、子どもと一緒に歌ったり描いたりして遊んでいるうちに、表現の基礎能力が育っていきます

のでぜひ日常のあそびのなかで体験したいものです。

たくさんやる必要はありませんが、代表的な「絵描きあそび」を紹介しておきましょう。



#### 4. 「美の教育は平和の教育」

美しいのは自然だけではありません。人間も美しいし、人間の生きざま、人間のくらしの中にある美しさに気づかなければなりません。子どもや若い人たちだけが美しいではありません。仕事で荒れたお父さんのごつい手も美しいし、たくさんのしわが刻まれたおばあちゃんの顔も、人生の年輪を経てきた深い美しさがあります。絵を描くことは、心の中でその対象と対話することです。

美しさに気づき、美しさを大切に子どもたちは、やがて醜いものを拒む子どもたちへと成長します。醜いものとは、「いじめ」であり、「暴力」であり、「テロ」であり、その権化は「戦争」です。

イギリスのハーバート・リードは『芸術による教育』の中で、「芸術の教育は平和の教育」であると、結びの部分で提唱しています。それを芸術教育研究所の初代所長である多田信作氏は「美の教育は平和の教育である」と、いいかえています。

「お絵かき」なんかじゃない、「あそび」どころか絵を描くということは平和教育なのです。私が1976年に書いた古い「詩」を紹介します。

\* 詩集「丘陵地の春」より

石　こ　ろ

さっきまで肌寒い雨ふりもようの空の下で  
ちぢかんでいた石ころが  
今はあったかな教室の机の上にある

おれは、つい今朝方は  
おまえの存在などまるで知らなかったし  
気にもとめていなかった

その石ころを  
おれはたんねんに水で洗い  
お前のざらざらの肌を掌（てのひら）でぬくめる

おれはじっとお前をみつめ  
真っ白なまばゆいばかりの画用紙の中に  
お前の姿をかきとめる

その量感をかきあらわそうとする  
冷たい雨の中にうたれるお前のことを想い  
曇（みぞれ）降る日のおれの思い出が、お前の映像とかさなる

さっきまで肌寒くちぢかんでいた石ころが  
今は身近かに感じ  
今は俺の机の上で、おれと対話する



## 5. 乳幼児の「絵画指導」の実際

では、乳幼児にどのようにして「絵画指導」を実践するのでしょうか。

頭では理解しても、実際に自分で体験しなければ、子どもがつまづいても、障害のある子が投げ出しても、その先どうすればいいのかわからず、結局好きにあそばせてしまいます。汚れて、後片づけをしながら、もう絵の具はやめよう、やっぱりこの子たちには無理なんだと子どものせいにしがちです。

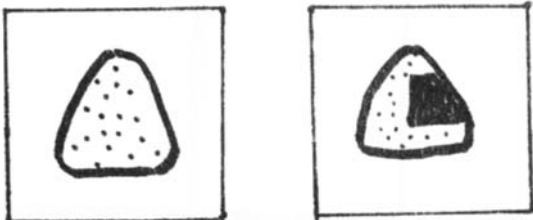
どこの園にでも個人持ちの水彩絵の具があるとは限りません。ましてや、高齢者施設となるとめったに絵の具のセットはないでしょう。筆もパレットも水入れも、全部用意するとなると大変です。そこで考えたのが「ペットボトルのふた」と「綿棒」です。これならどこにでもあるし、だれにでもできます。

＜用意するもの＞



### \*演習・1 「おにぎり」

(意図的な点が描ける) 1、2才児  
点描によるゴマ



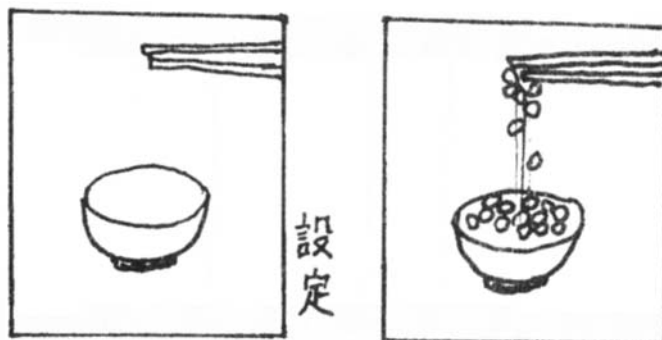
### \*演習・2 「いちご」

点描によるタネ



### \*演習・3 「なっとうごはん」

綿棒を水にひたし、絵の具をトントンとつける  
(上から下へ、下から上へ意図的に点描ができる)



子どもの活動

小さい試し紙

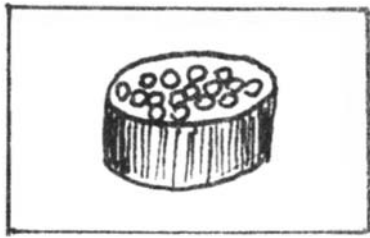


(注意・片方使ったら綿棒は捨てる)

＊演習・4 「いくら丼」

(同じねらい、同じ方法で題材を替えて反復する)

画用紙の大きさ32切り

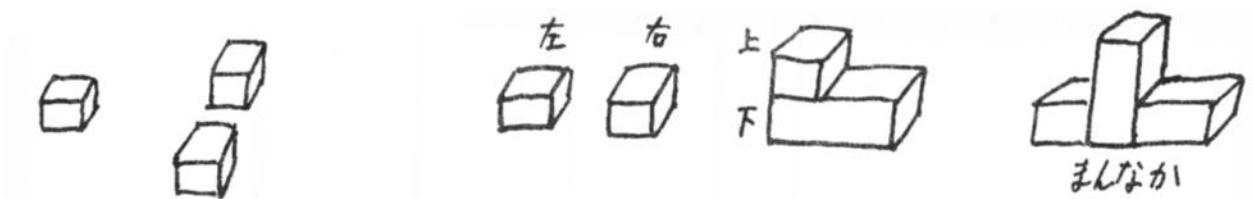


この方法は、乳幼児のために考えたのですが、障害児（者）、高齢者で実践してみましたが、実にスムーズに参加し、楽しむことが出来ました。食べ物を題材にすると、季節に関係なく取り扱うことが出来るし、身近かでだれでもがイメージすることができます。出来れば本物を見せたいのですが、食べさせないわけにはいかなくなるので、写真や絵本を見せると、なおのことイメージしやすくなります。

6. 子どもにとって絵を描くための「基礎能力」とは何か

まず、画用紙の上、下（天地）がわかるということです。そして、縦と横がわからなければ、平面と空間の約束事が理解出来ません。

積み木を並べて、向こうとこっち、上と下、左と右というように絵を描く以前にあそびながら、空間認識を育てます。



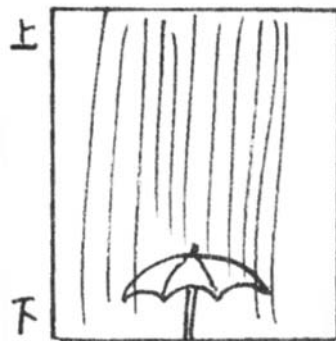
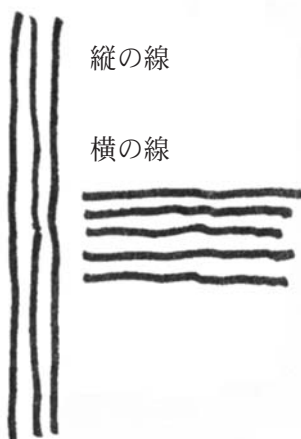
絵が描けるということは、平面の空間に線が描けるということです。1、2才児で点が描けるようになったら、次は、意図的な線が「上から下へ」、「下から上へ」描けるようになることです。

そのためには、どんな「題材」を与えたらいいか考えてみましょう。

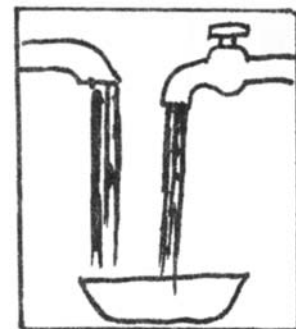
＊演習・5 「雨」

上から下へ線

(描画材はクレヨンか色鉛筆がよい)



＊演習・6 「水道」



(他にも、「シャワー」、「じょうろ」などが考えられる)

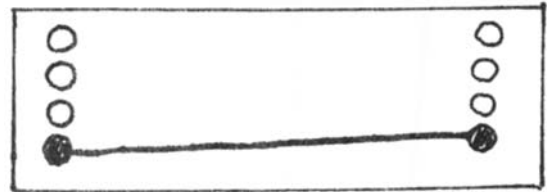
\*演習・7「草」

下から上への線

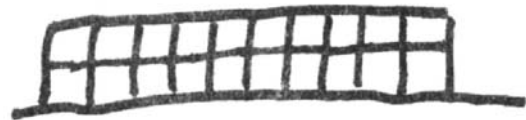


\*演習・8「線結び」

左から右への横の線  
(同じ色のシールとシールを線で結ぼう)



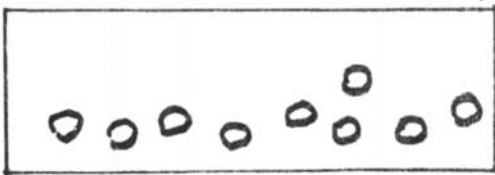
<発展>これで「線路」、「はしご」、「柵」が描けるようになります。



(注) 3才から入園してきた子どもには、やはり最初は「点描」が必要です。  
そんなに時間をかけずに、いろいろな「点描」であそんでみましょう。

\*演習・9「たんぽぽ」

緑の色画用紙に「指点描」 絵の具 黄



\*演習・10「あしあと」

筆点描 (左から右へ)



「自由画」は指導がなければ、「放任画」でもあります。何人かの、ほんの少数の子どもたちが「バス」を描けたとしても、みんなの子どもが描けなければ、それは教育・保育ではありません。みんなが描ける、1人の落ちこぼれもなくみんなができた。そのためにはどんな手だてが必要かを考えるのが、プロとしての指導者の役割です。

縦と横の線が描ければバスは描けるのです。基礎能力がないのに、「がんばってごらん」「よく思い出してごらん」「バスに乗ったでしょう」と、いくら言葉かけをしても線が描けなければ、「バス」も「電車」も描くことは出来ません。

「うず巻く線」「波線」「丸い線」が、次の「基礎能力」として必要になってきます。

「まるいものを描こう」

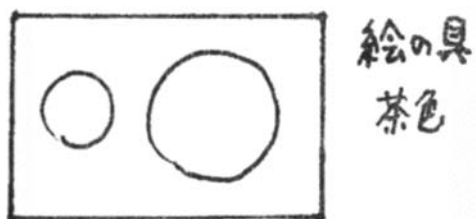
\*演習・11「おはじき」



\*演習・12「チョコボール」



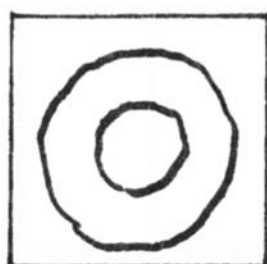
\*演習・13 「おせんべい」



\*演習・14 「ボールドーナツとリングドーナツ」

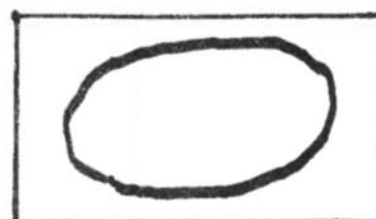


\*演習・15 「タイヤ」画用紙を正方形にして与えると  
どの子も上手にまるが描けます。



同じ「まる」でも、  
ボール状のまる、皿状のまる、  
リング状のまるがあります。

長方形だとながまるに  
なってしまいます。



「人物を描く」部分から、全体へ、後ろ頭、正面向きの顔、そして、からだへと発展します。

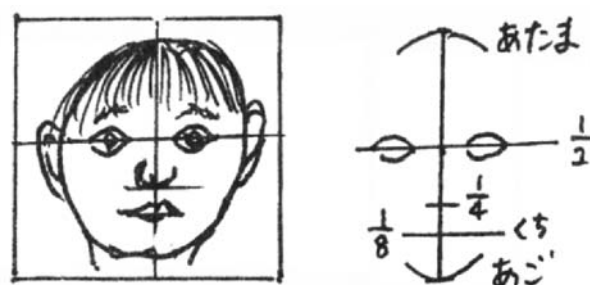
\*演習・16 「後ろ頭」ビーチボールが参考になります。



\*演習・17 「正面向きの顔」(部分)

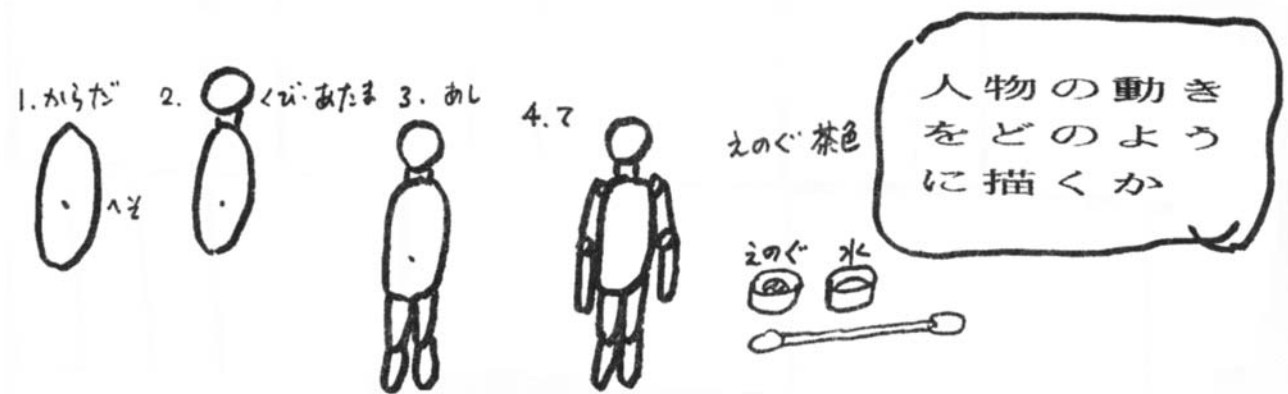


\*演習・18 「正面向きの顔」(全体)





- \*演習・19 「はだかんぼ人間」 からだ全体をとらえる  
ここでも綿棒は便利



- \*演習・20 「紙人形」 人物の動きをとらえる

- \*演習・21 「針金人間」



描きたいポーズが  
思い通りに描ける  
ようになっていく。

日常の「自由画」の  
中の人物が変わって  
いく。

ここまでの、表現のための「基礎能力」といっています。そのうえで、「くらしが描ける」し「行事が描ける」し、さらには空想による物語の世界が描けるようになっていきます。

子どもたちの「創造力」ともう一つの「想像力」は、絵を描くことによって育っていくのです。しかし、これは「表現活動」の一部であって、美術教育の中の「描画指導」の領域です。美術教育にはそのほかにも「ねん土あそび」(彫塑)、「造形あそび」(工作、工芸)、そして「鑑賞」という領域もあります。どれもこれも、一度に実践することは出来ませんので、まずは「絵画指導」の中の「描画」から取り組んでいくことをおすすめします。「描画」を主軸にしながら、その関連で「ねん土」や「造形あそび」に取り組むことによって、より「豊かな表現力」が形成されると思います。

## 「乳幼児の絵画指導」 題材一覧表

ー発達・年齢と系統性を考慮しながら、自分の園の1年間の月別の配列を試みるー

- 題材・1 「おにぎり」、「のりつきおにぎり」  
題材・2 「いちご」  
題材・3 「なっとうごはん」  
題材・4 「いくら丼」  
題材・5 「雨」 \*関連題材「シャワー」、「じょうろ」  
題材・6 「水道」  
題材・7 「草」 \*関連題材「花」「チューリップ」「マーガレット」  
題材・8 「線結び」「ポッキー」  
題材・9 「たんぼぼ」 \*関連題材「ミニトマト」「ぶどう」「とうきび」  
題材・10 「あしあと」  
題材・11 「おはじき」  
題材・12 「チョコボール」 \*関連題材「こんぺいとう」「ネックレス」  
題材・13 「おせんべい」「ペロペロキャンデー」  
題材・14 「ボールドーナツとリングドーナツ」 \*関連題材「おだんご」  
題材・15 「タイヤ」 \*関連題材「うきわ」  
題材・16 「うしろ頭」 \*関連題材「ビーチボール」「紙風船」「ゴム風船」「すいか」  
題材・17 「正面向きの顔」(部分)  
題材・18 「正面向きの顔」(全体)  
題材・19 「はだかんぼ人間」 \*関連題材「お人形」「マリオネット人形」  
題材・20 「紙人形」 \*関連題材「動く人物」  
題材・21 「針金人間」(ホネホネマン) \*関連題材「モール人形」  
題材・22 「行事を描く」  
「運動会」「マラソン」「いもほり」「落ち葉拾い」「発表会」「節分」  
題材・23 「くらしを描く」  
「おにごっこ」「遊具であそぶ」「サッカー」「お掃除」「お父さん」「働くお母さん」「友達の顔」  
題材・24 「お話しの絵」  
「さるとかに」「おむすびころりん」「大きなかぶ」「エルマーの冒険」  
題材・25 「集団画」(共同制作)  
「動物園」「水族館」「遠足」「大きなモミの木の下で」「収穫祭」

